

9 門	9 日	3 宀	4 手	14 土	9 手	8 心	9 心	6 口	6 二	常用漢字
闇 <small>クオン クオン</small>	暗 <small>クアン クアン</small>	安 <small>ヤアン ヤアン</small>	扱 <small>アツカウ アツカウ</small>	圧 <small>アツ アツ</small>	握 <small>アク にぎる</small>	惡 <small>オク わるい</small>	愛 <small>アイ アイ</small>	哀 <small>アイ あわれむ</small>	亜 <small>ア ア</small>	アーン
/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	甲骨文 ～前1000
/	/	/	/	/	/	/	/	𠂔 <small>哀成市鼎</small>	亞 <small>南宮子鐘</small>	金文 ～前222
闇	暗	/	𠂔 <small>居延漢簡</small>	壓	握 <small>睡地客陶</small>	惡 <small>定鼎漢簡</small>	愛 <small>居延漢簡</small>	哀 <small>武威漢簡</small>	亞 <small>馬王堆卷子之本</small>	説文解字 隷書(肉筆) 前219頃を100に著す
闇 <small>始上銘</small>	/	安 <small>居延漢簡</small>	扱	壓 <small>中田石門碑</small>	握 <small>漢石門碑</small>	惡 <small>漢石門碑</small>	愛 <small>西漢碑</small>	哀 <small>武祠石門銘</small>	亞 <small>尹宙碑</small>	前206～68 隷書(石筆) 148～186
闇 <small>蘇軾</small>	暗 <small>鮮于樞</small>	/	扱 <small>祝允明</small>	壓 <small>李立</small>	握 <small>黃庭堅</small>	惡 <small>王羲之</small>	愛 <small>王羲之</small>	哀 <small>王羲之</small>	亞 <small>沈粲</small>	草書 303～
闇 <small>王羲之</small>	暗 <small>蔡襄</small>	/	扱	壓 <small>黃庭堅</small>	握 <small>李風</small>	惡 <small>王羲之</small>	愛 <small>王羲之</small>	哀 <small>王羲之</small>	亞 <small>蘇軾</small>	行書 303～
闇 <small>元彦慈誌</small>	暗 <small>蘇孝慈誌</small>	/	扱	壓 <small>北齊志</small>	握 <small>元思慈誌</small>	惡 <small>牛勣造像記</small>	愛 <small>元彦慈誌</small>	哀 <small>龔龍範碑</small>	亞 <small>陳福寺碑</small>	北朝碑 405～580
闇 <small>歐陽通</small>	暗 <small>歐陽詢</small>	/	扱	壓 <small>北齊志</small>	握 <small>歐陽詢</small>	惡 <small>牛勣造像記</small>	愛 <small>元彦慈誌</small>	哀 <small>龔龍範碑</small>	亞 <small>陳福寺碑</small>	楷書 405～580
闇 <small>干祿字書</small>	暗 <small>干祿字書</small>	/	扱 <small>石經</small>	壓 <small>五經文字</small>	握	惡 <small>五經文字</small>	愛 <small>石經</small>	哀	亞 <small>石經</small>	正字 628～665
闇 <small>北天竺大阿闍梨 法華寺法華經 佛加羅光作字</small>	/	安 <small>法華寺法華經 佛加羅光作字</small>	扱	壓	握	惡	愛 <small>佛加羅光作字</small>	哀 <small>佛加羅光作字</small>	亞 <small>佛加羅光作字</small>	日本上代 ～794
闇 <small>空紙本朗詠集</small>	暗 <small>藤原佐理</small>	安 <small>小野道風</small>	扱	壓 <small>色紙法華經</small>	握 <small>元朝萬葉十七</small>	惡 <small>關本朗詠集</small>	愛 <small>佐藤源行成</small>	哀 <small>藤原基實集</small>	亞 <small>藤原佐理</small>	平安和様 794～1192
闇	暗	安	扱	壓	握	惡 <small>古文</small>	愛	哀	亞	江戸 1603～1868
闇	暗	安	扱	壓	握	惡 <small>陸軍</small>	愛	哀	亞	康熙字典 1716
/	暗	安	扱	壓	握	惡 <small>陸軍</small>	愛	哀	亞	文部省活字 1935
/	暗	安	扱	壓	握	惡	愛	哀	亞	常用漢字 1949
/	暗	安	扱	壓	握	惡	愛	哀	亞	教育漢字 1961

★……北宋(960)以後に書かれたもの  
 陸軍……陸軍幼年学校編纂『用字便覧』『漢字ノ正體ト別體』大正2年(1913)7月編纂、昭和13年(1938)3月改訂  
 ©2007 Hajime Okuma

【亜】隷書には中央に横線がある。篆書にはない。隷書で突然横線が出現するのは不自然だから、始皇帝の文字統一よりも古い字に起源があるのではないかとおもって探し出したのが金文の字体。文字統一以前には横線のある字体とない字体があったのだ。ところでこの横線はなんなのだろう。白川静によれば、「亞」は地下の墓室の形で、四隅がないのはそこに悪霊が潜むと考えられていたから、だという。とすればこの横線は棺であろう。

現在の日本で書かれている字体は、行書で書かれてきた字体で、遅くとも宋時代から使われている。

【哀】北朝碑と楷書では「口」の最終画が左に突き出ている。正字の例は見あたらない。最終画は払っても止めてもどちらでも良い。日本上代は一面多いめずらしい字体。

【愛】楷書では「心」の最終画と「夕」を繋げて書く。日本上代の字体を見ると、日本には正字が伝わったようだ。草書はなぜこのような字体になるのだろうか。江戸の崩し方を見るとわかったような気がする。

白川静によれば、「愛」は振り向く人の形に「心」を加えた会意字、だという。「後ろ髪引かれるような」というが、そのような心情を字にしたものだろうか。ロマンを感じる字である。

【惡】隷書では「亜」と同様に横線がある。睡虎地秦簡に

横線のある字体を発見。居延漢簡にはくさかんむりがついたようなめずらしい字体がある。「惡」は正字と「西+心」の字体が両方書かれてきた。戦前の陸軍幼年学校の用事便覧には「西+心」の字体が明朝体で印刷されている。現在の字体はもともと行書で書かれてきた字体。

【握】草書や行書ではほとんどの字に点が付く。この点は捨て筆、咎なし点、補空などと呼ばれる。正字がみあたらない。平安和様は手偏にも木偏にも見える。手偏と「木偏」は異体字として通用する。

【圧】「圧」は「壓」の略字。楷書と正字に使用例が見つからない。しばしば「厂」の上に点がつくことがある。また「土」に点がつくことがある。中国の簡体字は「圧」に点がついた字体。「土」に点がつくのは「土」と間違えないための記号であろう。

【扱】中国での使用例が少ない。「及」は手書きすると三画なのに、康熙字典も漢和辞典でも四画。

手書きの字体を示しているはずの文部省活字だけ旁が「及」と四画になっている。「及」は手書きでは書きにくいとおもうのだがどうだろう。

【安】「宀」の「点」と女は繋げて書くのが伝統的な書き方。

【暗】もとの字は闇。説文と康熙字典だけが一面目を横線にし、他はすべて(正字でさえも)点にしている。